

損益計算書

(百万円未満切捨)

科目	平成16年8月中間期	平成15年8月中間期
経常損益の部		
営業損益の部		
売上高	119,927	113,580
売上原価	86,687	81,461
売上総利益	33,240	32,119
営業収入	2,230	1,971
販売費及び一般管理費	32,729	28,986
営業利益	2,741	5,103
営業外損益の部		
営業外収益	(517)	(348)
受取利息及び配当金	79	28
受取手数料	316	268
その他の営業外収益	121	50
営業外費用	(893)	(699)
支払利息	808	627
その他の営業外費用	85	72
経常利益	2,366	4,751
特別損益の部		
特別利益	(3)	(3)
その他の特別利益	3	3
特別損失	(64)	(50)
固定資産売却損	22	-
固定資産除却損	33	3
構造改善費用	7	44
その他の特別損失	-	3
税引前中間純利益	2,304	4,704
法人税、住民税及び事業税	1,032	2,318
法人税等調整額	8	52
中間純利益	1,279	2,438

1. 損益計算書の解説

(1) 売上高の予想・実績差異理由

当中間会計期間の売上高は1,199億27百万円(前年同期比5.6%増)となりましたが、うち既存店売上高は1,077億14百万円(前年同期比3.7%)で、既存店客数が0.7%増加したにもかかわらず、既存店売上高は減少しました。

この既存店売上不振の原因は、競合と消費税総額表示の価格対策による既存店一人当たり買上単価の下落から、既存店売上高前年同期比が3.1%となった他、増販対策でチラシ売上構成比を前年同期比3.5%増加させたことにより0.6%の影響が出たためです。

(2) 経常利益の予想・実績差異理由

経常利益は23億66百万円(前年同期比50.2%)で大幅に減少しました。売上総利益額は前年同期比11億20百万円増加していますが、売上総利益率は消費税対策価格とチラシ商品の増販等により、前年同期比7億19百万円、0.6ポイント低下しました。また、経費では販促・広告宣伝費が前年同期比3億20百万円増(15.0%増)、人件費が12億91百万円増(13.1%増)等が減益要因となっています。

2. 貸借対照表の解説

(1) 商品在庫の増加は、当中間会計期間中に開業した店舗在庫が24億30百万円、輸入商品在庫増加35億23百万円が主な増加要因です。

(2) 固定資産の増加は、当中間期の設備投資123億04百万円によるものです。

(3) 買掛金の増加は、商品在庫増加に伴うものです。

(4) 支払手形が一括支払信託システムへの切り替えにより減少しました。

(5) 新株予約権付社債(130%コールオプション条項付)の繰上償還は4百万円で、残りは全て株式に転換され、当中間会計期間中に資本金・資本準備金が87億53百万円増加しました。

(6) 有利子負債は、主に新株予約権付社債87億58百万円の減少により、有利子負債比率は47.4%(前中間期末比0.8%)となりました。

3. キャッシュフロー計算書の解説

(1) 営業活動によるキャッシュ・フロー

当中間会計期間において営業活動の結果得られた資金は9億51百万円(前年同期比86.7%)となりました。これは、キャッシュ・フローの法人税等の支払額を控除した税引前中間純利益と減価償却費の減少15億80百万円、「仕入債務の増加額」の減少51億27百万円、及び「売上債権の増加額」の減少4億53百万円等が要因であります。「仕入債務の増加額」の減少は、輸入仕入比率の増加により決済サイクルが短縮した他、前年中間期末に金融機関の休日による支払手形未決済額15億96百万円が含まれていたこと等が原因であります。

これらの結果、営業キャッシュ・フローは前年同期比62億円減少しました。

(2) 投資活動によるキャッシュ・フロー

当中間会計期間において投資活動の結果支出した資金は111億62百万円(前年同期比32.1%増)となりました。これは、店舗の大型化等により先行投資が50億77百万円増加したこと、当中間期出店の追加投資が減少したことにより、前年同期比27億10百万円支出が増加しました。

(3) 財務活動によるキャッシュ・フロー

当中間会計期間は営業活動によるキャッシュ・フローが減少したため、設備資金調達により財務活動によるキャッシュ・フローは91億97百万円(前年同期比172.4%増加)となりました。